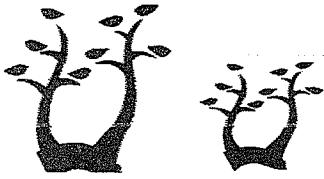


「鵜沼の緑と景観を守る会」機関紙

鵜沼の緑

5月例会・懇談会報告



発行 藤沢市鵜沼地区「鵜沼の緑と景観を守る会」

(略称:みどりの会)

事務局 代表 北村裕彦(携帯090-9836-5157)

5月例会・懇談会報告

5月例会は5月20日(日)15時より鵜沼公民館で行いました。出席者18名。9時半より高木ふれあい荘清掃が行われ、参加者は5名でした。なお、当日は「海岸を歩こう」を予定どおり実施しました。詳しくは懇談会報告でお知らせします。例会の司会、古山幹事。書記、佐藤幹事。

5月例会報告

1 湘南藤沢文化ネットワーク総会 5月5日 場所:蔵まえギャラリー

○事業計画

講演会と写真展の開催・・・みどりの会は写真展に参加。「鵜沼の景観」を掲示します。

○歴史文化めぐり(大人の遠足)をひき続き企画。本年も4回実施予定。

6月・・・片瀬地区 9月・・・善行地区

10月・・・藤沢宿 来年1月・・・長後地区

○2012湘南邸園文化祭に参加

また、旧後藤邸で演奏会を開いてはどうかという話しもありました。

記念講演会 「藤沢の歴史的文化的景観を語る」と題し、東海大の小沢教授の講演。

内容は藤沢宿建物を中心にその由来をスライドで紹介。この藤沢宿は川越や栃木の街なみに匹敵するほどであったが、東海道沿いであったため開発が進んでしまったということです。小沢先生はとくに藤沢宿にある歴史的建造物の一つを登録有形文化財にしたいと旧後藤医院を見にこられました。当然、みどりの会もその実現に向けて協力していくことになります。

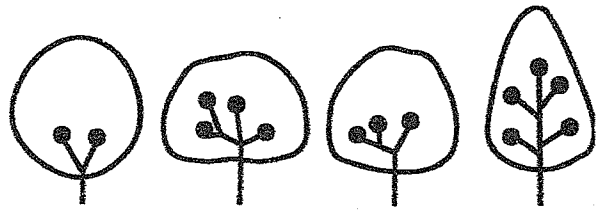
2 みどり活動団体の話し合い

5月18日、海岸緑化5団体が集まり、慶応大の高橋・原両氏によるテキスト「藤沢の海岸防災林の実現に向けて」を参考に話し合いが行われました。話し合いの主旨は、いま、藤沢には緑のまちづくりに取り組む力ある団体は多数あるが、一つの団体で抱え込めることなく、また、それぞれの調査・交渉の経験もバラバラにしているはその取り組みにも限界がきてしまいます。命を守り、まちを守るために、共有・合意・実現できることを段階的に繋ぎ、育てていきたいと思います。今回は各団体の活動状況報告で終わりましたが、次回はみどりの会の「海岸を歩こう」などを中心に話し合うそうです。

3 湘南海岸砂防林事業について

主に事業の歴史について県発行の資料を中心に報告されました。

その中から、昭和58年～昭和60年度



にかけて実施された「クロマツと常緑広葉樹による多層林の形成」について触れておきます。これは湘南海岸の砂防林を維持していくため、クロマツに他の樹木を混植した多層林の形成を目指したもので、元横浜国大宮脇昭教授の指導のもとに、平塚の虹ヶ浜で植栽試験を行ったもの。この地域は、直接海からの影響を強く受けるので、ここに最も適した植生（潜在自然植生）を把握するため、コウボウムギほか6種類の砂草とトベラ、マサキほか16種類の樹木を面積6080㎡に密植し、飛砂、潮風の影響を受けながら生育状況を観察するというものです。その結果、厳しい自然条件にもかかわらず活着率は90%と極めて良好であり、年間30～50cmの成長も観察されたそうです。

当時は砂防林の植栽が中心でしたが、昨年3・11以来対津波の防災林をどうするかが浮上しました。この問題も宮脇先生はいち早く取り上げられ、砂防林を更に一歩進めて、津波対策のため、防災丘を築こうと提案され、各地でその運動が高まっています。

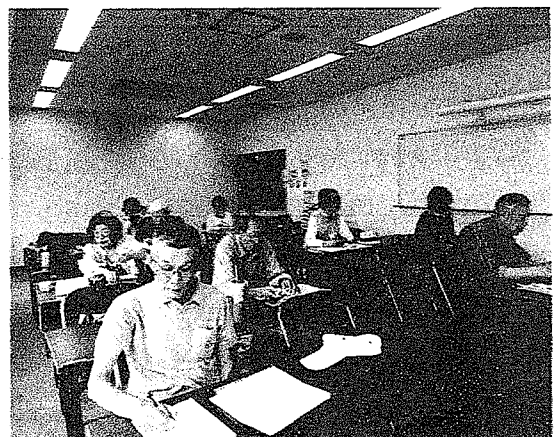
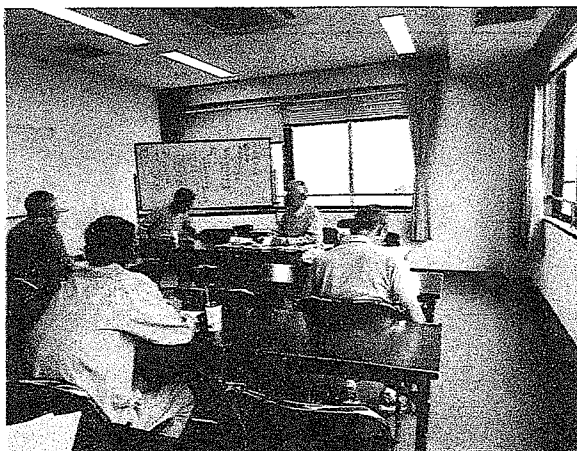
4 「鵜沼の自然」展示

鵜沼公民館、郷土資料展示室では6月からの展示内容を「鵜沼の自然」と決め、みどりの会にも協力の呼びかけがありました。この展示は運営委員会の展示に加えて、鵜沼の自然について様々な活動をしている団体および個人に呼びかけて、その活動の成果を展示することによって、「鵜沼の大地の形成史・湘南砂丘地帯の特徴・境川と引地川・リゾート鵜沼を育んだ温かな気候・砂丘・鵜沼の生き物の話題・鵜沼の自然災害・自然の観察と調査など」を様々な角度から紹介することを目的としています。

みどりの会は松の分布図、景観写真など展示に協力することになりました。

5 動画製作について

このたび市のIT課で市の広報用動画を作成するというので、鵜沼・明治・長後の各地区を選び、協力要請が公民館にあったそうです。詳細は未定ですが、さし当り「動画製作の基礎知識とスキルを学ぶ講座」が開かれ、5月24日に打ち合わせがあるそうです。



懇談会 「鵜沼海岸を歩いてみて」

当日は快晴。気温は25℃まで上昇。真夏日和という感じでした。11時に海岸の平和の像前に集合。参加者13名。先ず、江の島水族館に向かって出発。20m先の県の工事、津波用避難タワー建設現場を眺め、水族館手前で折り返しました。浜は観光客、サーファー、地引網パーティなど人々であふれ返っていました。平和の像まで戻って昼食。12時半、再び海岸沿いに辻堂方面へ。134号線と国道1号線が合流する辺りで折り返しました。公民館に戻り、例会後、16時より懇談会に入り「海岸を歩いてみて」の感想を話し合いました。

避難タワー建設現場

以下、発言順に要旨をまとめました。

●植栽の余地について

水族館辺りにはないが、浄水場周辺なら可能。

- サイクリングロード沿いは山側なら植栽可能箇所は比較的多くある。海側は砂山になっていて難しい。県の保全対策が不備と痛感。

- 宮脇先生提案の瓦礫埋め立てによる樹林丘の可能性について。

引地川を境に辻堂側と鵜沼海岸側とでは植栽の様子が違う。可能性としては辻堂海岸側か。

県の津波タワーについて。

完成図をみるとせいぜい20人~30人くらいしか収容できない。逃げ遅れた人のためと思えば納得。

- 植栽は松だけでなく、広葉樹も必要だと思った。

- 辻堂方面の海岸の樹木はせいぜい2~3mのトベラ・シャリンバイ、松も高木ではなく這い松程度。もう少し高木の広葉樹を植えた方がよい。



ハマヒルガオ

- 津波は10m~20mと高いのだけを考えず、5m~10mのことを考える方が現実的ではないか。それなら樹林帯でもOKだ。
- 辻堂海岸の方面が対策が遅れているのではないか。県はその方面にもっと対応すべきだ。
- 松は砂防のために津波対策にはならない。

- 津波対策のことばかり考えているが津波はこないということも予想してよい。津波が来なかったら、樹木は1年に1m育ち、やがて樹林帯となり、景観となる。

- とにかく空いている所へ植樹する。

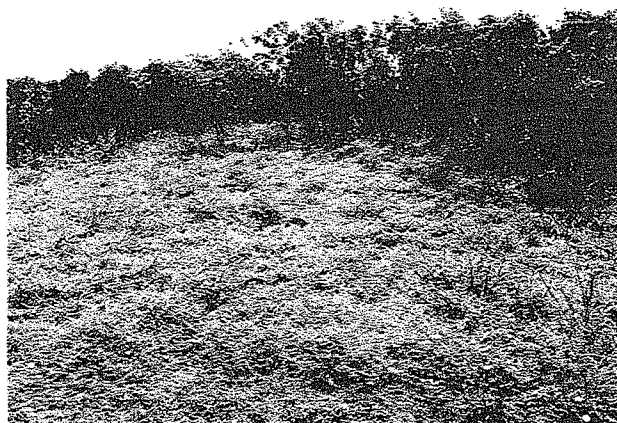
- 東日本の災害を見て、松林は凶器になることもあると思った。あまり松に頼ってはいけない。



避難看板

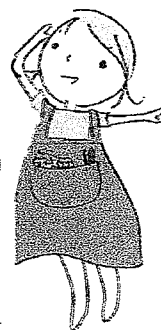


- 松に頼らない広葉樹林帯をつくる。
そこを公園にする。
- サーフビレッジや中部駐車場辺りだったら樹林丘は可能ではないか。
- 砂防林はなんとか目的を果たしているのだから、次に樹林丘を作りたい。どこかモデルとして1~2箇所作ってみてはどうか。みんなでドングリを拾ってきて、宮脇先生提案のように育て植栽しよう。
- 松は凶器になると言われたが、阪神・淡路大震災の時には松の防災林が街を守ったことは確か。松との混植を考えるべきだ。
- 観光地という視点をがらりと考えないと海岸に樹林丘をつくるのは難しい。
- とにかく市に瓦礫受け入れを働きかけ、東北で始まっている瓦礫を埋め立てて、その上に土で覆った丘づくりを1箇所でもいいからモデルケースとして始めよう。そのために市議や県議にも動いてもらおう。
- 参加者が少ないのに驚いた。この海岸を総合的に大々的に考える必要がある。



植栽可能な場所？

会費納入のお願い



最近各地でまちづくり、まちおこしが活発になってきました。
みどりの会もこうした人々と手をつないで協力しあっていきたいと幹事一同張り切っております。

今年度の会費納入をよろしくお願いします。

お近くの幹事にお渡し下さい。

編集係 r65

去る五月二十日(日)の海岸を歩く会に参加しました。実際に歩いてみると今まで見えなかったものが見えてきました。
例えば海岸の堤防の高さが5m。その上に立って、海からの高さを実感したり、歩いていくと樹木帯が意外と低く、松は這い松に近い。トンビやカラスがやたらに多く我物顔で飛んでいた。海はキラキラ光っていました。
(佐)



6月日程のお知らせ



編集会議	6月6日(水)	14:00~
広報印刷	6月8日(金)	15:00~
高木ふれあい荘清掃	6月17日(日)	9:30~
例会	6月17日(日)	15:00~
学習会		16:00~

「ニコニコ自治会景観形成地区へ」

大西勝彦会員(ニコニコ自治会)

0邸清掃	6月15日(金)	9:30~
幹事会	6月23日(土)	10:00~